

## 【成果報告書 1 : 海洋教育のデザイン】

1. 学校名 気仙沼市立唐桑中学校

2. 活動テーマ名 私たちは、「古里」「人間」とどのように関わり、「未来」をどう生きればよいのか。

### 3. 実践の概要・ねらい

海と密接な関係を持っている自分たちの生活する地域において、「古里とかかわる学習」を行う。実際に津波を想定した避難訓練や、それに伴う海拔表示を設置する活動をとおして、防災意識を高めるとともに、自分や家族、地域の人々の命を守ることができる力を育てる。また、「人間とかかわる学習」を行うことによって、地域の福祉の現状や漁業を基幹産業としている地域の職業社会について理解を深めるとともに、地域の人々とよりよくかかわっていくことのできる力を身に付けさせる。

以上の活動の中で、「未来について考える学習」を行い、自分たちのまわりの問題についてとらえ、どのように解決したらよいか、考える力を身に付けさせる。

### 4. 実践計画

(1) テーマ・概要・活動計画、教科等との関連

1 学年「地域と防災に関する学習」

テーマ：「防災のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばよいのか

- ① 地域を知り、海拔表示活動を行う。
  - ・津波浸水区域調査 ・地形調査 ・海拔表示版の作成及び設置、メンテナンス
- ② 海の災害からまち（まちの人々）を守る。
  - ・防災マップの作成 ・防災啓発活動（防災カルタ、防災標語、図案考案等）
  - ・サバ飯（緊急時の簡易炊さん）

2 学年「人間」とのかかわりについて理解を深める学習

テーマ：「福祉のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばよいのか

- ① 「職場体験学習」
  - ・水産業やそれに関する職業について体験活動を行う。
- ② 福祉施設への訪問学習
  - ・町内にある福祉施設（高松園・第二高松園・只越荘）

3 学年「未来」にむけて自分たちができることと、どのように生活したらよいか考える学習

テーマ：「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばよいのか

- ① 地域の特色を生かし、地域を活性化し、人々を元気にするにはどうしたらよいかを考える。
  - ・地域の実態についての調査活動 ・地域の課題や問題点を考える
- ② 自分の問題意識と生き方を考え、「未来」をどう生きればよいのかについて発表（発信）する。
  - ・4つのコースに分かれ活動（商品開発プレゼンコース・歴史民俗コース等）

(2) 実践の評価について

各学年共に、文化祭や地域（まちづくり協議会や町民文化祭）での発表及び成果物やワークシート、ノートによる評価を行う。また、これに加え、3年生においては、「海洋教育こどもサミット in 東北」「気仙沼市海洋教育実践発表会」での発表等を評価に生かす。

## 5. 今年度の実践

### (1) 計画からの追加・変更点

#### 1 学年「地域と防災に関する学習」

- ・地域の伝統芸能「大漁唄い込み」の歴史を知る活動は、3学年の歴史民俗コースの活動に変更した。

#### 2 学年「人間」とのかかわりについて理解を深める学習

- ・学年のテーマに迫るため、「エネルギーと環境」についての学習をカットし、「友だちや家族を考える」というテーマに変更し、仲間とともに歩むために大切なことは何かを考える学習に変更した。

#### 3 学年「未来」にむけて自分たちができると、どのように生活したらよいか考える学習

- ・テーマ：「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばよいか
- ・計画の通り追加・変更点無し

### (2) 実践の成果

#### 1 学年「地域と防災に関する学習」

- ・事前の等高線調べは効果的だった。地図上で、大まかな地形を把握したことで、現場では実際の状況をより具体的に調査させることができた。
- ・4つの地区に分かれ、それぞれにアドバイザーを付けたことで、更に詳しく津波の進入箇所や避難経路を具体的にさせることができた。
- ・文化祭での発表に向けた取組では、プレゼンテーションの方法や技術を学ばせることができた。

#### 2 学年「人間」とのかかわりについて理解を深める学習

- ・ワークシートを使うことで、活動の目的や流れといった学習内容をしっかりと把握させることができた。これは、生徒の意欲にもつながった。
- ・現地での福祉体験学習は、子どもたちの福祉に対する思いを、より深めさせることができた。はじめは戸惑う様子も見られたが、活動を進めていくうちに、だんだんと自ら進んでコミュニケーションを図る姿も見られるようになった。
- ・文化祭での発表では、活動の様子について写真を効果的に用いて伝えたり、感じたことや今後自分がどのようにかかわっていききたいかについて、しっかりと伝えたりすることができた。

#### 3 学年「未来」にむけて自分たちができると、どのように生活したらよいか考える学習

- ・地元のコーディネーター(まるオフィス)を活用することで、地域の方々やデザイナー等の専門家の協力を得ることができた。
- ・自分たちの住む地域の課題を、自分たちの問題としてとらえさせることができた。
- ・関係者会議を設定したことで、地域の方々への協力依頼が容易になった。
- ・生徒自らの力で、立派な成果物を完成させることができた。歴史民俗コースでは、後継者不足により無くなりかけた伝統芸能を復活させたり、商品開発コースでは、地元の漁業協同組合に助けをいただきながら、新商品を開発させたりすることができた。また、地域を紹介するパンフレットも立派に完成させることができた。

### (3) 次年度への課題

#### 1 学年「地域と防災に関する学習」

- ・専門家による海拔の再調査や取り付けられた海拔表示版のメンテナンスの在り方を追究したい。
- ・幼稚園や小学校との連携を強化したい。

#### 2 学年「人間」とのかかわりについて理解を深める学習

- ・企業訪問について、興味関心だけでなく、何を学びたいのかをしっかりと持たせることで、更に詳しく、深まりのある学習を目指したい。
- ・いじめ問題等、現代的な課題を積極的に取り入れながら、身近な課題として課題追究させたい。

3学年「未来」にむけて自分たちができることと、どのように生活したらよいか考える学習

・海のまちとしての活性化を目指した学習となった。地域との連携も構築できた。学習の大きな柱が出来上がりつつあるので、これを更に課題追究させ、より積極的に社会参画させられるようにしたい。

## 6. 主な連携機関及び内容

- (1) 一般社団法人まるオフィス（コーディネーター）全学年
- (2) NPO法人底上げ（まちづくりに関する相談）全学年
- (3) ペンシー株式会社（デザイン全般の指導）3学年
- (4) 唐桑町観光協会（からくわの観光について）3学年
- (5) 東北食べる通信（パンフレット作成指導）3学年
- (6) 漁師（講師）3学年
- (7) 宮城県漁業共同組合唐桑支所（水産加工物等の指導）3学年
- (8) 地域の伝統芸能保存会（伝統芸能指導）3学年
- (9) 唐桑町まちづくり協議会（発表関係）3学年
- (10) 社会福祉法人洗心会（福祉体験学習）2学年
- (11) 社会福祉法人慶心会（福祉体験学習）2年生
- (12) 気仙沼市障害者生活支援センター（講話）2学年

成果報告書 2-①

学校全体テーマ：「まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか」

1学年のテーマ：「防災のまち」として、どのようなまちを目指しそのためにどうしていけばいいのか

【実践のねらい】

海と密接な関係を持っている自分たちの生活する地域において、「古里とかかわる学習」を行う。実際に津波を想定した避難訓練や、それに伴う海拔表示を設置する活動をとおして、防災意識を高めるとともに、自分や家族、地域の人々の命を守ることができる力を育てる。

○時数 4月～10月 50時間（総合的な学習の時間）

○関連 国語，社会，美術，道徳

○目標 (1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。

(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えることができるようにする。

【主な連携機関と内容】

- ・一般社団法人まるオフィス（コーディネーター）
- ・NPO法人底上げ（まちづくりに関する相談）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体 験 的 な 活 動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;"><b>まちを「知る」・「探る」Ⅰ</b></p> <p>ガイダンス（防災のまちとして）</p> <p>津波浸水区域調査・地形調査①〈唐桑，中井地区〉</p> <p>津波浸水区域調査・地形調査②〈唐桑，中井地区〉</p> <p>津波浸水区域調査・地形調査③〈唐桑，中井地区〉</p> <p>「災害に備える」①〈防災講話，グルーピング〉</p> <p>「災害に備える」②〈図上訓練，海拔表示設置場所選定〉</p> <p>「災害に備える」③〈唐桑，中井地区マップ作成，海拔表示作成〉</p> <p>「災害に備える」④〈唐桑，中井地区マップ作成，海拔表示作成〉</p> <p>フィールドワーク①〈ショート避難訓練〉</p> <p>フィールドワーク②〈海拔表示設置場所決定〉</p> <p>フィールドワーク③〈海拔表示設置依頼〉</p> </div>											
探 究 的 な 活 動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;"><b>まちを「知る」・「探る」Ⅱ</b></p> <p>地形，津波浸水区域調査④〈小原木地区〉</p> <p>地形，津波浸水区域調査⑤〈小原木地区〉</p> <p>「災害に備える」⑤〈小原木地区マップ作成，海拔表示作成〉</p> <p>「地域を探索」：大理石海岸実地調査①</p> <p>「地域を探索」：大理石海岸実地調査②</p> <p>小原木地区内海拔表示メンテナンス活動①</p> <p>小原木地区内海拔表示メンテナンス活動②</p> <p>意見交流①〈「防災・減災」と「自助・共助」〉</p> <p>意見交流②〈「防災・減災」と「自助・共助」〉</p> <p>紙上へのまとめ①〈「防災・減災」と「自助・共助」〉</p> <p>紙上へのまとめ②〈「防災・減災」と「自助・共助」〉</p> <p>備蓄庫保管物調査①〈保管物の個数〉</p> <p>備蓄庫保管物調査②〈モーター類作動訓練〉</p> </div>											
表 現 活 動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 40%;"> <p style="text-align: center;"><b>啓発活動 文化祭発表</b></p> <p>〈防災カルタ標語，図案考案〉</p> <p>〈防災カルタ標語，図案考案〉</p> <p>〈防災カルタ作成①〉</p> <p>〈防災カルタ作成②〉</p> <p>文化祭で発表</p> </div>											

成果報告書 2-②

学校全体テーマ：「まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか」

2学年のテーマ：「福祉のまち」として、どのようなまちを目指しそのためにどうしていけばいいのか

【実践のねらい】

海と密接な関係を持っている自分たちの生活する地域において、「古里とかかわる学習」を行う。「人間とかかわる学習」を行うことによって、地域の福祉の現状について理解を深めるとともに、地域の人々とよりよくかかわっていくことのできる力を身に付けさせる。

○時数 4月～2月 70時間（総合的な学習の時間）

○関連 国語，社会，美術，道徳

○目標 (1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。

(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えることができるようにする。

【主な連携機関と内容】

- ・一般社団法人まるオフィス（コーディネーター）
- ・NPO法人底上げ（まちづくりに関する相談）
- ・社会福祉法人洗心会（福祉体験学習）
- ・社会福祉法人慶心会（福祉体験学習）
- ・気仙沼市障害者生活支援センター（講話）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	ガイダンス ◎今年度の総合的な学習について 全体導入（年間テーマの提示）◎年間を通した学習課題の紹介 ◎テーマ：福祉のまちとして テーマⅡ：「人間はなぜ働くのか」～職場体験学習へ向けて～ 学習①◎学習課題の紹介「人間はなぜ働くのか」「働くとはどういうことなのか」 ◎事前討論会：「自分たちの考え（予測）を話し合おう。」 学習② ◎職種把握と訪問先を考える。～様々な職種から学ぶ～ ・訪問先をどうするか（第一次産業～第三次産業及び唐桑の産業） 学習④-1 ◎アポイントメントのとりかた ・電話の対応及び依頼状の作成 ◎訪問計画立案（テーマ設定，質問事項の検討）				テーマⅡ：「人間はなぜ働くのか」～職場体験学習へ向けて～ 学習③ ◎職業に関する講話「 講師 ハローワーク気仙沼 担当者 学習④-2 ◎事前指導（訪問のための準備・礼儀やマナー等について） 体験学習①②（各事業所） ◎一日の仕事体験 ◎保護者による送迎，または公共交通機関を利用する。 ◎「人間（同僚・上司・客・地域）と、どのようにかかわって生きているのか？ ◎職業生活の実際を学び，自己の進路設計に生かすようにする。							
探究的な活動	テーマⅠ：「福祉と共生」 ～障がい者や高齢者とどのようにかかわって生きていけばいいのか～ 学習① ◎事前討論会：「自分たちの考えを話し合おう。」 ・障がいのある人とどのようにかかわればいいのか。 学習② 講話及びワーキング ◎講話1 仮題 「鈴木重雄さんと唐桑の福祉」 講師 まるオフィス代表 加藤 拓馬 氏 ◎講話2 仮題 「唐桑の福祉施設の概要について」 講師 唐桑総合支所 保健福祉課 担当者 ◎交流学習に向けて ・意見交換の話題についての検討 ・交流学習の準備 学習③ ◎体験学習（高松園・第二高松園での交流）午前中 ・園生との交流 ・職員の方々との意見交流 学習④ ◎体験学習（唐桑園・只越荘での交流）午前中 ・園生との交流 ・職員の方々との意見交流 学習⑤ ◎お礼状の作成 ◎学習③・④のまとめ ◎「福祉と共生」について考えたことを個人ノートにまとめる。 ◎発表会及び討論会の準備 ◎発表会及び討論会 テーマ「障がい者や高齢者とどのようにかかわって生きていけばいいのか。」				テーマⅢ 友達や家族を考える「仲間と共に歩むために大切なことは何かを考える。」 学習① ◎身近な人々の問題を考える。 ◎現代の課題（いじめ，不登校，少子高齢，震災復興，家族等）から，個人ごとに学習テーマを設定する。 ◎取組の実施 学習テーマ毎にグループ編成し，実施計画を立てる。 学習② ◎取組の実施 ・実施計画に基づいて活動する。 ◎討論会の準備 ・体験から考えたことを個人ノートにまとめる。 ◎望ましい行動討論会 ・小グループ毎に討論し，全体で発表する。 ◎まとめ ・「人間」とのかかわりについて再考しノートにまとめる。				テーマⅤ 進路探究学習 ～東京都内での職場訪問に向けて～ ◎東京都内での官公庁や大使館，企業等の選定と調整 ◎グループ編成 ◎アポイントメントの学習（電話の対応・依頼状の作成） ◎事前調べ学習及びテーマ設定 等 ◎質問事項の検討 等 ◎実施計画の作成			
表現活動	文化祭での発表											

成果報告書 2-③

学校全体テーマ：「まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか」

3学年のテーマ：「海のまち」として、どのようなまちを目指しそのためにどうしていけばいいのか

【実践のねらい】

海と密接な関係を持っている自分たちの生活する地域において、「古里とかかわる学習」を行う。漁業を基幹産業としている地域の職業社会について理解を深めるとともに、地域の人々とよりよくかかわっていくことのできる力を身に付けさせる。

活動を通して、「未来について考える学習」を行い、自分たちのまわりの問題についてとらえ、どのように解決したらよいか、考える力を身に付けさせる。

○時数 4月～2月 70時間（総合的な学習の時間）

○関連 国語，社会，美術，道徳

○目標 (1)自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。  
(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えることができるようにする。

【主な連携機関と内容】

- ・一般社団法人まるオフィス（コーディネーター）
- ・NPO法人底上げ（まちづくりに関する相談）
- ・ペンシー株式会社（デザイン全般の指導）
- ・唐桑町観光協会（からくわの観光について）
- ・東北食べる通信（パンフレット作成指導）
- ・漁師（講師）
- ・宮城県漁業共同組合唐桑支所（水産加工物等の指導）
- ・地域の伝統芸能保存会（伝統芸能指導）
- ・唐桑町まちづくり協議会（発表関係）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
体験的な活動	テーマⅠ「進路探求学習①」 ◎自主研修を成功させよう ・訪問する企業や大学等について、事前に調べ学習を行う。 ※ 企業の業務内容や社会的な役割、大学にある学部的に学べる分野等について事前に調査する。 ・訪問企業、大学等への事前連絡・質問状の作成・交通手段の確認 ◎ 職場訪問 ○都内自主研修を活用し、企業や大学等を訪問する ・企業や大学の社会的な役割、職業生活で大切にしていること、上級学校の様子等を知り、自己の進路探求に役立てる。 ◎職場訪問のまとめ ○職場訪問から学んだことを新聞形式でまとめる。 ・お礼状の作成 ・レポートや新聞の作成			テーマⅢ「海のまち『唐桑』の未来を考える」 ◎コース選択 ○「商品開発プレゼンコース」と「歴史民俗コース」に分かれる。 ◎コース毎にグループを編成し、実施計画を立てる。 「商品開発プレゼンコース」の活動例 ・唐桑の海の資源を使った新商品を開発する。 ・地域PRのDVDやパンフレットを作成する。等 「歴史民俗コース」の活動例 ・唐桑に伝わる伝統芸能を後世に残すために、年度毎に伝統芸能を絞って、地域の方に教えていただく。		テーマⅣ「海のまち『唐桑』の未来のために行動する」 ◎実施計画に基づいて実行する。 「商品開発プレゼンコース」の活動例 ・唐桑の海の資源を使って開発した食品を実際に調理してみる。(地域の食材を使った調理実習) ・自分たちが企画した新商品を企業にPRするプレゼンテーションを作成する。 「歴史民俗コース」の活動例 ・休日等に地域の方と伝統芸能を練習する。 ・2年時に訪問した福祉施設(高松園等)で踊りを披露する。 ・唐桑中伝統のソーランを練習し、後輩に指導する。 ※9月に実施する「崎浜大漁唄込み」は、コース関係なく全員で体験する。 ★ テーマⅡとテーマⅢは、7月～9月に実施し、夏休み中に予定されている「 <u>海洋教育子どもサミット</u> 」で、各コースの代表が中間発表できるようにする。								
探究的な活動	テーマⅡ「海のまち『唐桑』を知る」 ◎事前調べ学習 ○唐桑の豊富な海の資源の利用(海の産業)について調査する。 ○海に関わりのある唐桑の伝統文化について調査する。 ◎地域の方の講話を聞く ○海産物食品加工に従事する方や、伝統芸能に関わっている地域の方の講話を聞く。													
表現活動				ト 東 北 参 加 海 洋 教 育 こ ど も サ ミ ッ ト					文化祭での発表 町民文化祭での発表 海洋教育実践発表会					